

創刊号

Fukui Medical University

福井医大病院だより



平成15年2月



「福井医大病院だより」 発刊に当たって

副学長・附属病院長
齋藤 等

福井医科大学病院は1983年（昭和58年）に開院し、今年で20周年を迎えます。

これまで本院は、高度先端医療を行う医学部附属病院として診療を通じて医の倫理に徹した人格高潔な臨床医及び医学研究者の育成に努め、多くの優秀な人材を輩出してきました。また、福井県で唯一の特定機能病院として地域医療の中核となり生命倫理に基づいた医療の実践に努め、併せて、地域あるいは地方自治体等との連携を図り地域の保健医療の発展向上に大きく貢献してきております。

現在、国立大学附属病院を取り巻く社会的な環境には、平成16年4月からの国立大学法人化をはじめ包括医療の導入や医師の卒後臨床研修の必修化など大変厳しいものがあり、病院の運営体制そのものに的確な変革が求められています。

とりわけ本学は、本年10月に福井大学との統合が予定されており、本院も新しい大学の附属病院として開院20周年を機に再スタートすることとなります。更に先に述べたとおり半年後には、法人化が実施され教育・研究・診療に加え経営にも責任を持たなければなりません。

そのような中で、本院では医療の提供が、教育、研究と一体となっていて行われてきたことから、必ずしも効率的な運営がなされていない面があったことを真摯に受け止め、今後は効率的な病院の管理・運営を行っていくことが重要であることを認識し種々方策を検討し実施して参りたいと考えています。

もちろん、これまで以上に患者本位の医療の推

進と高度先端医療の取り組みを充実させ、EBMに基づいた医療の推進と安全性に配慮することは言うまでもありません。

本院における具体的な改革の実施状況や今後の取り組みの一部について紹介し、「病院だより」の発刊のあいさつとさせていただきます。

○FDG-PET検査の診療開始（14年9月から）

- ・14年4月から保険診療が認められたPET検査を、本学高エネルギー医学研究センターの8年間にわたるPET臨床研究実績を基礎にして開始しました。
- ・今後、この検査とMRやCTなどの先端医療技術を用いた検診を行うことも検討しています。

○NST（栄養サポートチーム）の設置と活動開始（14年9月から）

- ・医師、栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士が集まって、それぞれの専門的立場から意見を出し合い、入院中・在宅療養中の患者がよりよい栄養状態を保つための手伝いを行う活動を本格的に開始しました。

○ISO9001の承認取得

- ・内科・外科・整形外科・放射線科への外来患者に対する放射線部画像診断サービスの設計・提供について、品質管理の国際基準である「ISO9001」の承認を取得しました（平成14年12月承認）。
- ・医療の質の向上と業務の効率化・安全性を保証するため、15年に外来診療全体、16年に入院診療を計画的に承認取得予定です。



○外来診療の案内を臓器機能別に改める（15年4月から）

- ・内科と外科を中心に診療案内を患者にわかり易い臓器・機能別の表示に改めることとしました。

○附属病院全館禁煙の実施(平成15年4月実施)

- ・喫煙による悪影響と受動喫煙の被害を防止することなどを考慮し院内を全面禁煙といたします。このため事前に禁煙外来の開設や各種の講習会等を開催します。円滑な実施に御協力をお願いします。

○集中治療部の拡充(平成15年4月から)

- ・年々増加する手術後の重症患者及び集中治療を要する重篤患者に対応するため、特定集中治療室の増築を行い、病床を4床から6床に増床し急性期の治療

の充実を図ることとしています。

○福井大学との統合に伴う病院事務部の改組(15年10月予定)

- ・新大学の事務が効率的に処理されるよう事務機構の改善が行われ、附属病院の事務部は法人化後の病院運営も見据え、患者サービスと診療報酬業務を主に担当する医療サービス課と経済的にも効率的な運営を図るための経営企画課及び総務管理課を設置し、病院業務のより専門化を図ることとしています。

医療事故防止・医療の安全性向上のため病院全体で取り組んでいます。

医療安全管理部

○ 医療安全管理の取り組み

医療安全管理部を設置し、病院内で発生する医療事故につながる恐れのある芽を常に摘み、安全性を向上させることを専門に活動しています。院内の職員教育や、医療事故防止に関する新聞の発行、医師や看護師が他の病棟をチェックし合う相互チェックなどを行っています。

また、各診療科等の医師の代表と看護師長等が、安全管理を推進する者(リスクマネージャー)として50名活動しています。目印として胸に「安全管理」のバッジ(下図)を着けています。活動としては、医療の場でヒヤリとしたりハットした事例や新聞で報道された事故などについて、医師・看護師・薬剤師・検査技師等が集まり、病院全体の問題として毎月検討を重ねています。

○ 具体的な対策の紹介

◆患者様取り違い事故防止対策

- ・外来患者様は、氏名と生年月日で確認します。
- ・入院患者様は、リストバンドを装着していただき氏名を確認します。

◆薬剤師が患者様ごとに準備

- ・薬の専門家「薬剤師」が注射薬を患者様ごとにカート車に入れて準備し、注射事故防止に取り組んでいます。

安全性の向上を目指し



取り組んでいます!!

◆輸血事故防止に

コンピューターを活用

- ・患者様のリストバンドと輸血についているバーコードを小型のコンピューターで照合し、確認します。

◆指差し確認の実施

- ・JRで行われている指差し確認を取り入れ、患者様に投与する薬、重要な薬剤を注入する器械は、指差し確認を実施しています。

福井医科大学 “NST” とは

福井医科大学NST

“NST”とは栄養サポートチームの略です。栄養学を学んだ医師、栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士が集まって、それぞれの立場から意見を出し合い、入院中の患者様と在宅の患者様がよりよい栄養状態を保つことができるようにお手伝いするチームです。実は、日本の病院に入院中の患者様のおよそ三人に一人は栄養が十分でなく、栄養治療が必要であるといわれています。お年寄りだから寝たきりだから栄養は少しでよいとか、手術や病気の時は普段より多くの栄養が必要なのにわずかしき与えられていないなどの間違った考えが横行しているのです。床ずれなどは栄養がよければ決して起こらないのです。どんなによい治療をしていても栄養が不足しては病気や細菌にうち勝つことはできず、手術からも回復できません。つまり栄養療法は医療の根幹なのです。

NSTの具体的な活動をお示しします。栄養障害や床ずれの患者様が入院しますとNSTに連絡が来ます。直ちにメンバーが往診し、栄養治療が必要と判断されますとNSTが参集します。まず患者様の栄養状態を詳しく調べます。次に身長体重と病気の状態に応じて栄養の量と種類（糖質、タンパク質、脂肪、ビタミン、ミネラルなど）、投与方法（経口的、点滴、管を使った経腸栄養法など）を決めます。主治医とその病棟の看護師とも相談してよりよい栄養法を実践してもらいます。その後毎週一回回診をして栄養状態の改善をチェックし、必要なら栄養法を改善していきます。本院では平成14年3月ごろから始め、14年9月に本格的な全科型で活動に移りましたが、今では多くの患者様がNST回診を心待ちにしておられるようです。

NSTは、欧米の大きな病院では一般的ですが、我が国ではまだ150程の病院にしかありません。本院NSTは国立大学附属病院では全国で3番目にあたります。これまでに多くの患者様をケアしてきましたが、栄養療法をすることで病気からめざましい回復を示した例がたくさんありました。それとともに本院全体の栄養管理のレベルも著しく向上してきております。将来は職員全員がメンバーになることを目指し、高度医療を行う中心的病院として恥じないレベルの栄養療法を行ってまいります。

【FDG-PET検査とは】

放射線科

FDG-PET検査は平成14年4月より新たに保険診療が認められた検査で、フッ素18-フルオロデオキシグルコース（FDG）という放射線を出すブドウ糖の



類似体を注射し、ポジトロン断層撮影（PET）カメラを使って全身のFDGの分布を撮影することにより、癌をはじめとする様々な病気の診断を行うものです。癌細胞ではブドウ糖代謝が盛んでFDGが多く取り込まれるため、FDGを取り込んだ癌がPETカメラにより検出され、その広がりなども診断することができるわけです。FDG-PETの利点としては、CT（コンピュータ断層撮影）やMRI（磁気共鳴画像）といったこれまでの画像診断検

査と比べてより小さな癌を見つけることが可能であるということです。これは癌が小さくてもブドウ糖代謝が盛んであるという性質によるものです。5ミリ程度から1センチ未満の癌が見つかったという報告も数多くあります。

【FDG-PET検査を受けるには】

現在FDG-PET検査は12種類の保険適応疾患に限られており、大学病院外から検査を希望される場合には、かかりつけの病院からの紹介が必要となります。検査は、検査前4時間以上の絶食が必要ですが、FDGを注射した後、1時間ほど安静にしてからPETカメラで撮影を行います。撮影時間は約30分間ほどです。また、FDGを出す放射線による被曝量は1年間に大気中から浴びている自然放射線とほぼ同量で、人体への影響はまず問題ありません。検査は完全予約としていますのでお問い合わせなどは福井医科大学附属病院RI受付（0776-61-8171）までお問い合わせください。放射線科専門医師が対応いたします。



病理部新設

病理部副部長 今村 好章

本院病理部は平成14年4月より検査部から独立し、新設されました。病理部では病理診断業務を行っています。具体的には外来あるいは入院されている患者様から採取された組織あるいは細胞を染色し、顕微鏡で観察して、組織診断（年間約4,500例）あるいは細胞診断（年間約4,000例）を遂行しています。これらの病理診断業務が患者様の病気の最終診断及び治療方針の決定に大きく貢献しています。これらの診断に際し、必要に応じて様々な特殊染色を行い、診断の質の向上を図っています。また、場合によっては電子顕微鏡を用いた観察も行っています。

病理診断を行う医師を病理医と呼びますが、日本では欧米に比較して病理医の絶対的不足状態が続いています。特に福井県は全国で最も病理医が少なく、常勤の病理医は県内に7人しかいないのが現状です。したがって1人の病理医が他の病院の病理診断も兼任で行っています。本病理部では臨床検査医学講座との協力の下に、福井県の関連施設の腎生検の病理診断も行っています。また、本病理部は平成12年5月より舞鶴共済病院とISDN回線で結ばれ、画像の伝送が行えるようになりました。この遠隔病理診断システム（テレパソロジー）により病理医が不在でも遠隔地から病理診断を行うことが可能となりました。現在は舞鶴共済病院の手術中に緊急に病理診断が必要な症例（術中迅速診断）に対して行っています。これまでに100例以上を経験していますが良好な結果を得ています。今後遠隔病理診断システムにより他の県内外の関連施設とも連携していきたいと思っています。

病理部が新設されてはや半年以上が経過しましたが、現在のところ病理学講座、臨床検査医学講座及び検査部からの多大なる協力を得て、順調に機能しています。今後ますます地域医療に貢献できるよう努力していきたいと考えております。



総合診療部新設

総合診療部長 寺澤 秀一

総合診療部が平成14年4月新設されました。これには以下の二つの目的があります。

1. 紹介状がなくても気楽に受診していただくために

大学病院はとて多くの専門科があり、これまでに皆様が紹介状を持たずにおいでになった時、最初にどの科にかかったら良いのかわからず、困られた御経験のある方がいらっしゃると思います。そういう場合、最初に総合診療部の医師が診させていただき、どの専門科のどの医師に診ていただいたら一番良いかという判断をし、最も適した専門の先生に診ていただけるよう手配いたします。紹介状がなくても、受診したい時に気兼ねなく受診していただくための外来です。

しばらくは救急部外来の診察室を使用してこれを行います。やがて内科外来の並びに「一般内科」あるいは「総合内科」という名前で増設していく予定です。

2. 家庭医療専門医師の養成

これまで大学ではいろいろな専門医師を養成してまいりました。新設された総合診療部では家庭医療専門医師の養成も行います。家庭医療専門医師とは一言で言いますと「守備範囲の広い開業医師」のことです。病気も怪我也も子供さんも年輩の患者様も、診療できる医師が近くに開業していたら便利だと思いませんか？ つまりこれまで腰痛や膝の痛みは整形外科の先生に診ていただき、糖尿病と高血圧は別の内科の先生にかかっていたという場合には二つの医院に通うことになりましたが、家庭医療専門医師なら両方診られるのです。またこれまで子供は小児科の先生、大人は内科の先生にかかるというのが普通でしたが、家庭医療専門医師は両方診られるのです。また家庭医療専門医師は軽い怪我也も診ることができます。地域の皆様にとって近くにいて、最初になんでも診ていただける医師を育てようというのです。アメリカやカナダではそういう医者がたくさんいるのです。

看護部コーナー

私たち看護部が目指すもの

患者様を人間としての理解の上に立ち身体的、精神的、社会的な側面から健康状態を明らかにして、患者様お一人お一人がもつ潜在能力を最大限に発揮できるよう自立への援助を重視し、個別的看護を提供することを目指しています。



(看護部キャラクター)

看護に取り組む姿勢

患者様が人間としての尊厳が失われないように、患者様最優先の看護サービスを提供するよう心がけています。また安全性、安楽性、確実性を期するために、的確な判断、熟練した技術の提供とともに、患者様の意向を取り入れた日常生活の自立への援助方法を選ぶよう努力しています。より良い看護の提供のため、人間愛に根ざした心と科学的な思考ができるよう日々研鑽しています。

活動内容

- ・ 外来通院患者様の意向を汲んだ診療が受けられるよう配慮しています。
- ・ 全看護単位にて、入院時は患者様お一人お一人に、責任をもって担当させていただくプライマリナーシングをとっています。
- ・ 患者様の意向をとりいれた看護計画を立て、入院生活への援助・支援を行っています。
- ・ 看護師全員が一定水準の看護が提供できるようコンピュータを使用した独自の看護過程支援システムを構築し、全看護単位にて稼働させています。
- ・ インスリン自己注射、在宅酸素療法、人工肛門・膀胱の管理などの退院後引き続き看護援助を必要とする患者様に対して、外来指導相談室にて専門の看護師が相談、指導を行っています。
- ・ 感染管理認定看護師、救急看護認定看護師2名が熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践にむけて活動しています。
- ・ 全ての看護師長がリスクマネージャーに任命され、医療事故を防止し、安全性の向上を図っています。
- ・ 医師、薬剤師、栄養士や理学療法士等の他職種の方々と患者様を中心としたチーム医療に心がけています。
- ・ 地域住民の皆様の要求にこたえられ、高度医療に対応できる看護の質の向上のため計画的な研修を実施しています。



第一内科の御案内

第一内科では、血液疾患、循環器疾患、リウマチ、膠原病、痛風、感染症を中心に内科全般の診療を行っています。

●血液内科

国内の大学病院血液内科において、癌化学療法を臨床的にも、基礎的研究においても中心に据えている数少ない診療科であります。無菌室6床を有し、末梢血幹細胞移植・骨髄移植を中心に造血幹細胞移植も積極的に行っています。薬物の血中濃度・癌細胞内濃度を専門的に測定しつつ行う客観的な治療、白血病の分化誘導療法や分子標的療法も行っています。患者様の十分な同意を得た上で最新の臨床治験にも取り組んでおり、白血病、リンパ腫、骨髄腫などの重要な疾患については全国的な共同研究グループに参加して治療に取り組み、そのレベルを維持するかたわら、独自の専門的試みも積極的に行っています。

●循環器内科

虚血性心疾患、心不全、不整脈を中心に急性期から慢性期のあらゆる心臓病に対し、最新の治療を行っています。急性心筋梗塞や急性心不全など緊急疾患の受け入れをしつつ、一方では心エコー、運動負荷心電図、ホルター心電図、心筋シンチグラフィの他、適応と考えられる症例にはPETや血管内エコーなどのさらに精密な検査を駆使し、より精度の高い診断・病態把握を行うよう努め、治療に当たっています。虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈形成術(PTCA)やPTCA後の再狭窄予防に積極的に取り組んでいます。不整脈に対する診療も重視しており、徐脈性不整脈に対する薬物治療やペースメーカー移植術、また頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション数も増加しています。急性心不全に対しては、機械的補助治療(IABP、PCPSなど)も積極的に行っています。

●リウマチ・膠原病・痛風

痛風などの結晶性関節炎患者、慢性関節リウマチ、SLEなどの膠原病、アミロイドーシス、あるいは血液自己免疫疾患を中心に診療を行っています。最近では造血幹細胞移植後の移植片対宿主病患者様の診療も多くなっています。自己免疫あるいは同種免疫により引き起こされる病態に対し種々の免疫抑制療法を駆使しており、また核酸及び尿酸代謝の解析に立脚した高尿酸血症の治療を行っています。

●感染症

特に真菌感染症の診断、ヒトの防御機能の臨床的・基礎的な研究を土台として、日和見感染症、不明熱を主体としたHIV感染症を含む難治性全身性感染症の診療を行っています。

★臨床教授（助教授、講師を含む） 制度について

福井医科大学においては、本学の臨床実習又は臨床研修に協力していただいている学外の医療機関の優れた医療人に対して、臨床教授（助教授、講師を含む）の称号を付与しています。

これは、医療人の育成を図る上で、大学の教員とともに、医療の現状に練達した優れた医療人が、医療現場での豊かな経験を踏まえ医療人育成に参加・協力できるよう、平成8年に文部省の21世紀医学・医療懇談会の第1次報告（教育部会報告）で提言され、新たに設けられた制度です。

本学では、平成10年に要項を制定し、平成12年1月1日から称号を付与していますが、平成15年1月1日現在、臨床教授37名、臨床助教授6名、臨床講師4名となっています。

患者さんの声への御返事

本院では、院内に「患者さんの声」のボックスを2か所設置し、患者様からの御意見・御要望とあわせて多数の感謝の「声」をいただいております。患者様からの御意見・御要望を関係部署に伝え、改善可能なものは早急に実施するとともに、検討を要するものはサービス向上委員会等で検討し、患者様サービスに反映するよう努力しております。

今回は、特に御要望が多かった「患者様が外に出てくつろげる場所がほしい」との御要望を基に病院玄関前の改修工事を行い、1月に完了しました。

この工事は、バス停から正面玄関までの部分に、患者様が院外に出てくつろげる場所を設けるとともに、身障者用駐車場から、正面玄関までの通路を拡幅し、車椅子患者様の利便性の向上を行うものです。

今後も、患者様からの感謝の「声」を励みとし、患者様からの御意見御要望を反映する努力を行ってまいりますので、よろしくお願い致します。

最近の診察状況（患者の統計）

区 分	外 来 関 係				入 院 関 係		
	患者延数	1日平均	院外処方箋発行率	患者紹介率	患者延数	1日平均	平均在院日数
4月～12月	180,142 人	963.3 人	71.1 %	38.8 %	138,457 人	503.5 人	26.3 日
1 月	18,115	953.4	69.1	33.0	14,650	472.6	28.4

※患者紹介率：診療報酬上の紹介率

※病床数：600床

※平均在院日数：一般病床（559床）の平均在院日数

病院Q&A

Q 最近、患者様から高額療養費制度とか高額医療費融資制度を利用したいと聞きますが、この制度について教えて下さい。

A まず、高額療養費制度から説明します。

この制度は、患者様の負担を軽減するため、健康保険で治療を受けた際に支払われた1か月の医療費が72,300円を超えた場合（この金額は、患者様の所得、受給回数により変わります。）には、居住している市町村又は社会保険事務所等へ申請すれば、その超えた分が「高額療養費」として給付される制度です。

次に高額療養費融資制度について説明します。

先に説明しました高額療養費が受給されるまでには3か月程度かかります。社会保険及び各市町村の国民健康保険等には、当座の医療費支払いに当てるための資金として、「高額療養費」の80%の相当額を無利子で貸付けを受けることができる制度があります。この申請の手続きは、健康保険証を発行している社会保険事務所や各市町村等です。申請書類は各機関に備付けてあります。

医事課では患者様に制度利用のお知らせを行っております。

支給条件、詳しい手続き、疑問点等がありましたら、医事課外来窓口までお気軽にお問い合わせください。

福井医科大学医学部附属病院でのボランティア募集について

1. 現 状

本院では、患者サービスの一層の向上、地域との交流の促進を図るため、病院外来ホールで患者様の案内及び誘導をしていただくボランティアを受け入れています。現在、3名の方がボランティア活動に従事していただいておりますが、1日平均約1,000人の患者様が来院されており、更なる患者サービス向上を図るためには、一人でも多くのボランティアを必要としています。

2. 活動内容

病院外来ホールで以下のお手伝いをしていただきます。

- ① 外来診療申込書の記入説明、代筆
- ② 診療科への案内、誘導

なお、外来ホールに総合案内窓口を設置し、看護師、職員がボランティアの方への指示等を行います。

3. 活動時間帯

月曜日から金曜日（祝日、年末年始の休診日を除きます。）の午前8時30分から12時まで。

ただし、ボランティアを行っていただく方の御都合により、曜日、時間等は相談させていただきます。

4. 受入れの手続き等

本院では、ボランティア希望者に対して、以下のことを行い、受け入れております。

- ① 面接及び健康診断（胸部X線検査、血液検査）を実施します。
- ② 活動着及び名札は本院で準備します。

5. 連絡先

業務部医事課医事係 内藤
電話 0776-61-8454（直通）

「メッセージキルトの展示」

大野市下庄小学校6年1・2組の児童11名が手作りで製作した「メッセージキルト」を本院総合受付ロビーに展示しました。

総合的な学習として健康教育を授業に取り入れ、患者さんに1日も早い全快と勇気を与えるために心を込めたメッセージを贈りたいと「メッセージキルト」の作品を考え、11月上旬から放課後も惜しまず2か月間心を込めて作成したものです。

患者様達は、児童からの暖かい贈り物に感謝され大好評です。



編 集 後 記

本誌は、患者様をはじめ多くの方に福井医大病院の取組状況などをお知らせし、御理解いただくことを目的として、今回より年2回発行することになりました。

読みやすく、わかりやすいそして読み応えのある紙面づくりに向けて努力してまいりますので、よろしく願い申し上げます。

福井医科大学医学部附属病院 広報誌編集小委員会

〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下合月23-3
E-mail: info@fmsrsa.fukui-med.ac.jp